

「新図書館整備キックオフシンポジウム@杉江能楽堂」を開催しました

市立図書館では、市制施行100周年をキックオフの年と位置付け、新しい時代の図書館整備に向けて検討を始めています。そこで、11月23日（祝）に図書館について市民の皆さんと考えるシンポジウムを開催しました。当日は、関係者含め、77名の参加がありました。



第1部

伊東直登さん（松本大学図書館長/教授、
元塩尻市市民交流センター長兼図書館長）による基調講演

「図書館の新たな役割を考える～地域に役立つ図書館を目指して～」をテーマに、これからの図書館は「情報」を人に届け、地域に役立つ図書館として地域になくてはならないものとなる取り組みをすること、とお話しがありました。

伊東さんが館長をされていた塩尻のえんぱーくは、子育て支援課と一緒に作った施設を作られました。図書館と、子育て支援課がただ一緒に建物の中にあるというだけではなく、一緒にしたことのできることを考え、実践されていることを紹介いただきました。複合施設は、施設の複合が目的ではなく、サービスの融合が目的です。

これからの「図書館づくり」とは何か新しいことをしよう、ということではなく、図書館としての基本・基盤を整えながら、それを活用して社会の役に立つ図書館のサービスをすることであるということをお話してくださいました。

第2部

実践報告「地域に役立つ図書館を目指して～岸和田編～」
& 「空間デザインラボ～学生がイメージする未来のメディアプレイス」

「地域に役立つ図書館を目指して～岸和田編～」では「古民家PJ」から富田健介さん、「クリエイティブチーム」から松本賢さんによる報告がありました。これまで図書館利用をされていなかったお二人とのお縁は、「まちライブラリー」や「山直図書館本棚リレー」など、きっかけは「本」から始まっています。

「空間デザインラボ」では大阪公立大学工学部建築学科3回生の後期建築設計演習とのコラボが実現しました。きっかけは、令和3年度に開催された図書館ミーティングに若い人の参加がなかったことから、市民が自ら自身の出身大学の門をたたき、図書館ミーティングへの参加を依頼していただいたことがきっかけでした。



富田さんは会社員として働いていた頃、岸和田から離れていた時期があり、だからこそ分かる岸和田の良さを活かして古民家を改装して飲食店やカフェを営んでいること、ゆめみヶ丘まちづくり協議会での活動、そして古民家PJのワークショップ活動についてなどお話をしてくださいました。

松本さんも会社員として働いた後にご自身で会社を立ち上げられました。図書館のデジタルアーカイブを活かし、岸和田の魅力を記録して発信していきたいという「クリエイティブチーム」の想い、これまで2回の動画クリエイター講座を開催した時の様子や、その時の受講生の作品やご自身の作品を紹介していただきました。



大阪公立大学の西野雄一郎先生を中心に、6グループが約2分半という限られた時間の中、作品についてのコンセプトなどを説明してくださいました。岸和田の特産物や自然環境を活かしたものや、図書館に求める機能面から考えた新たな融合施設の提案など、岸和田の魅力を発信するアイデアがいっぱいでした。作品は、今後、図書館で展示する予定です。

第3部

パネルディスカッション

「岸和田市立図書館の可能性～新時代の図書館の役割と期待～」

アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役の岡本真さんをコーディネーターにお迎えし、伊東さん、図書館の新しい取り組みに関わってくださっている市民の七野さん、永野市長、橋本図書館長によるパネルディスカッションを行いました。

新しい発想による図書館の必要性や、大阪府下で3番目に市制を施行した岸和田市の古い歴史や文化、また、現在の図書館の前は、お城そのものが図書館だったという経緯など、岸和田市の持つポテンシャルの高さについて話がはずみました。

これから、じっくりと丁寧に時間をかけて、検討していきたいと思います。

